

# 2026年3月期

---

## 第2四半期決算説明会

2025年11月4日  
ヤマハ株式会社

皆様こんにちは、改めまして山浦でございます。よろしくお願いいたします。  
それでは私から2026年3月期第2四半期の決算につきましてご説明を申し上げます。

## 決算発表のポイント

### 決算概要

#### 【26/3月期 上期実績】

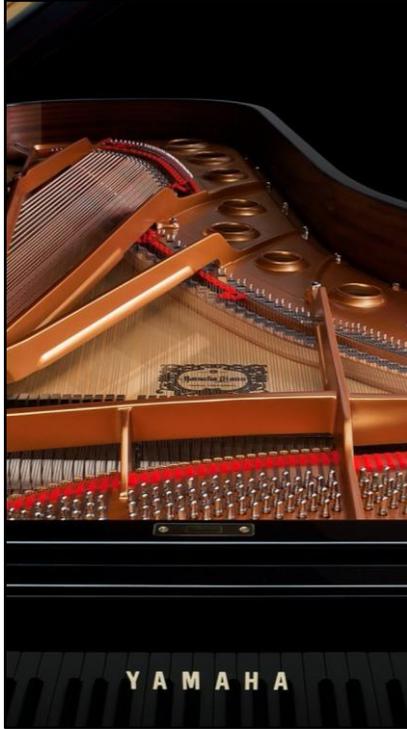
- ・売上収益は、中国の市況低迷、プロフェッショナル音響機器の高需要一巡に加え、欧州の市況回復が遅れ減収
- ・事業利益は、米国追加関税の影響、高粗利のプロフェッショナル音響機器減少によるミックス悪化等により減益

### 業績予想

#### 【26/3月期 通期予想】

- ・プロフェッショナル音響機器の高需要一巡、中国市況低迷により減収を予想
- ・米国関税影響、モデル・地域ミックスの悪化等により減益を予想

まず、今回の発表のポイントとなります。決算概要についてですが、26年3月期上期の実績として、売上収益は中国の市況の低迷、プロフェッショナル音響機器の高需要の一巡に加え、欧州の市況回復が遅れ、減収となりました。事業利益については、米国追加関税の影響、高粗利のプロフェッショナル音響機器の減少によるミックスの悪化等により減益となっています。業績の予想についてです。26年3月期の通期の予想ですが、プロフェッショナル音響機器の高需要の一巡、そして中国の市況の低迷により減収を予想しております。また、米国関税影響、モデル・地域ミックスの悪化等により減益を予想しております。



## 1. 決算概要

## 業績概要

(億円)

	25/3	26/3	前期比	
売上収益	2,281	<b>2,164</b>	△118	△5.2% <sup>*2</sup>
事業利益 (事業利益率)	204 (9.0%)	<b>128</b> <b>(5.9%)</b>	△76	△37.4%
当期利益 <sup>*1</sup>	53	<b>98</b>	45	+85.4%
*1 親会社の所有者に帰属する当期利益				
為替レート (円)				
US\$	153	<b>146</b>		
EUR	166	<b>167</b>		
			*2 △2.9% (為替影響除く)	

3

それでは続いて決算の概要についてご説明を申し上げます。こちら、上期の数字の実績となります。26年3月期売上収益としては2,164億、事業利益は128億円、率にして5.9%、そして当期利益については98億円になりました。上期の為替レートについてはこちらのスライドに示した通りとなります。なお売上収益については対前期で5.2%の減となっていますが、為替影響を除いた場合、2.9%の減となっております。

## 事業利益増減要因

### 前期との比較

(億円)



4

続いて、こちらのスライドでは滝グラフで事業利益の増減の要因についてお示しをしております。前期、25年3月期の上期は事業利益204億円でございます。減収減産モデルミックス他でマイナス65億とありますが、この要素としては、前期注残の解消も含め大きく売上を伸ばしたエンターテインメントPA機器がそこからの大きなマイナスとなっていること、また、高付加価値モデルの比率の高いヨーロッパで売上減が大きくなったこと等が挙げられます。今回織り込んだ関税の影響ですが、対前年で△52億になります。このうちおよそ半分の27億について、値上げ等でカバーをいたしました。その他、当社で取り組みを進めておりますピアノ製造の構造改革の効果の12億等があり、最終的には128億の事業利益で着地いたしました。

## 事業別業績

(億円)

		25/3	26/3	前期比	為替影響
楽器事業	売上収益	1,452	1,404	△48	△36
	事業利益	106	77	△29	△5
	事業利益率	7.3%	5.5%	△1.8P	
音響機器事業	売上収益	748	677	△72	△14
	事業利益	99	54	△45	△2
	事業利益率	13.2%	7.9%	△5.3P	
その他の事業	売上収益	81	83	2	△2
	事業利益	△0	△3	△2	△2
	事業利益率	△0.4%	△3.2%	△2.8P	

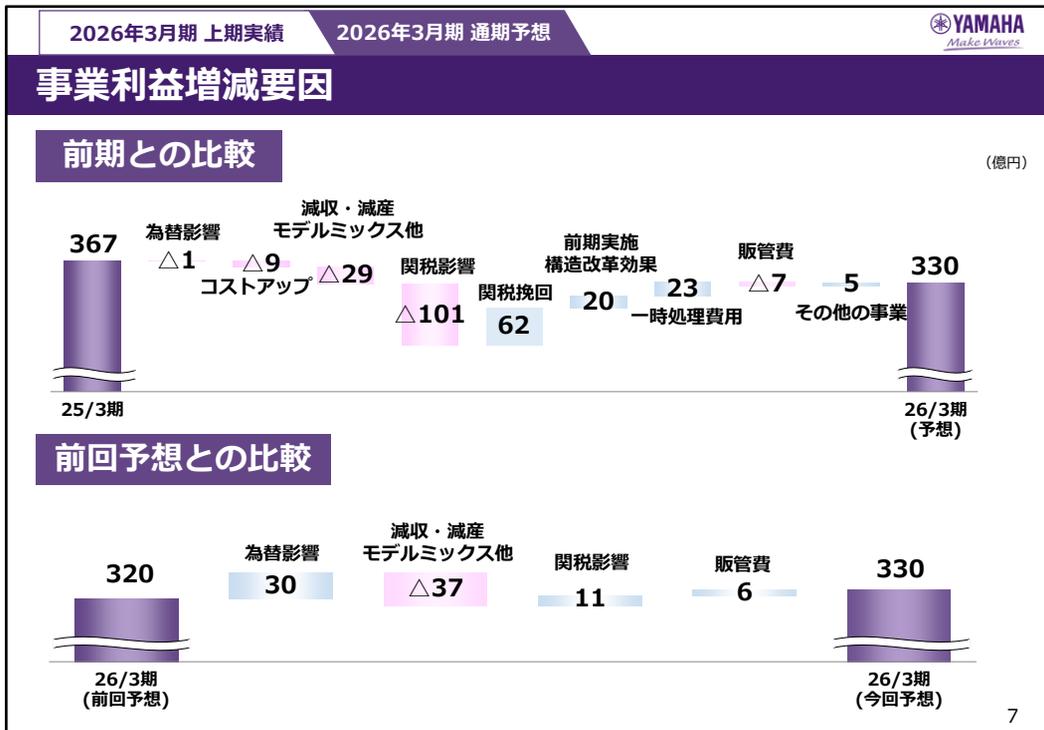
5

続いて事業別の業績になります。楽器事業についてですが、売上収益は1,404億円、事業利益は77億、事業利益率は5.5%となります。音響機器事業については、売上収益677億、事業利益が54億、事業利益率は7.9%です。またその他の事業についてはこちらに書いた通りとなっております。

2026年3月期 上期実績		2026年3月期 通期予想		YAMAHA Make Moves	
通期業績予想					
	25/3	26/3 (前回予想)	26/3 (今回予想)	前期比	前回予想比
売上収益	4,621	4,520	4,580	△41 <sup>*2</sup>	60
事業利益 (事業利益率)	367 (7.9%)	320 (7.1%)	330 (7.2%)	△37	10
当期利益 <sup>*1</sup>	134	225	230	96	5
*1 親会社の所有者に帰属する当期利益			*2 +0.8% (為替影響除く)		
為替レート (円)			1円変動による影響額		
US\$	153	145	146	売上収益 約8.8億円	利益 約1.1億円
EUR	164	161	169	売上収益 約6.2億円	利益 約3.7億円
※下期の為替前提は、US\$145円、ユーロ170円					

6

続いて、通期の業績予想でございます。26年3月期、今回の予想のところになりますが、売上収益は4,580億、前期比で41億のマイナス。前回の予想比ということでは60億のプラスとなっております。事業利益については330億、事業利益率7.2%です。前期に比べると37億のマイナス、前回予想との比較では10億円のプラスとなっております。当期利益については230億、前期比で96億のプラス、前回予想と比べて5億のプラスとなっております。為替レートについてはこちらで示している通りとなっております。



通期の予想における事業利益の増減の要因を滝グラフで示しております。まず上段、前期との比較になりますが、367億の前期実績から、減収減産モデルミックス他でマイナス29億円、これは先ほど同様エンターテイメントPA機器の売り上げ減が大きな要素となっております。関税影響101億円に対して挽回が62億円、前期構造改革費用の効果20億円と、同じく前期計上した一時処理費用分のプラス23億等があり、通期で330億の予想としております。

続いて、下の方、前回予想との比較ですが、為替影響でプラス30億、主にヨーロッパの売上減を要素とした減収減産モデルミックス他でマイナス37億等があり、前回予想から販管費6億の圧縮を入れて、前回予想の320億から10億円プラスとなっております。

## 事業別業績予想

(億円)

		25/3	26/3予想	前期比	為替影響
楽器事業	売上収益	2,961	2,990	29	△57
	事業利益	221	215	△6	1
	事業利益率	7.5%	7.2%	△0.3P	
音響機器事業	売上収益	1,478	1,390	△88	△19
	事業利益	143	110	△33	2
	事業利益率	9.7%	7.9%	△1.8P	
その他の事業	売上収益	182	200	18	△4
	事業利益	3	5	2	△3
	事業利益率	1.6%	2.5%	+0.9P	

8

次にこちら、事業別の概要となっております。楽器事業は通期予想で売上収益2,990億、事業利益は215億、事業利益率7.2%です。音響機器事業については1,390億の売上収益、事業利益は110億、率で7.9%。その他の事業についてはこちらに示している通りとなります。

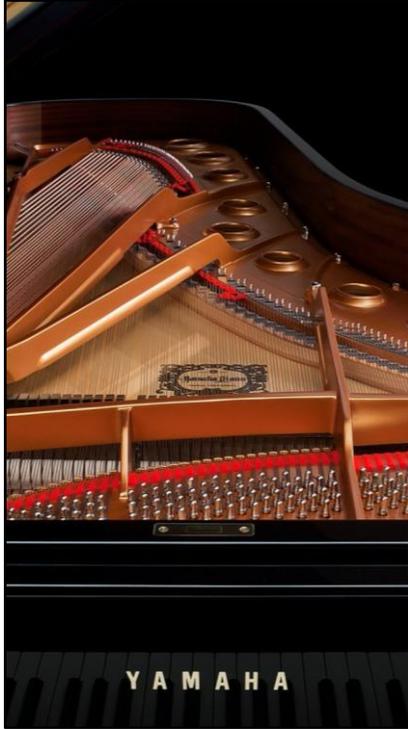
## 事業別業績予想・前回予想比

(億円)

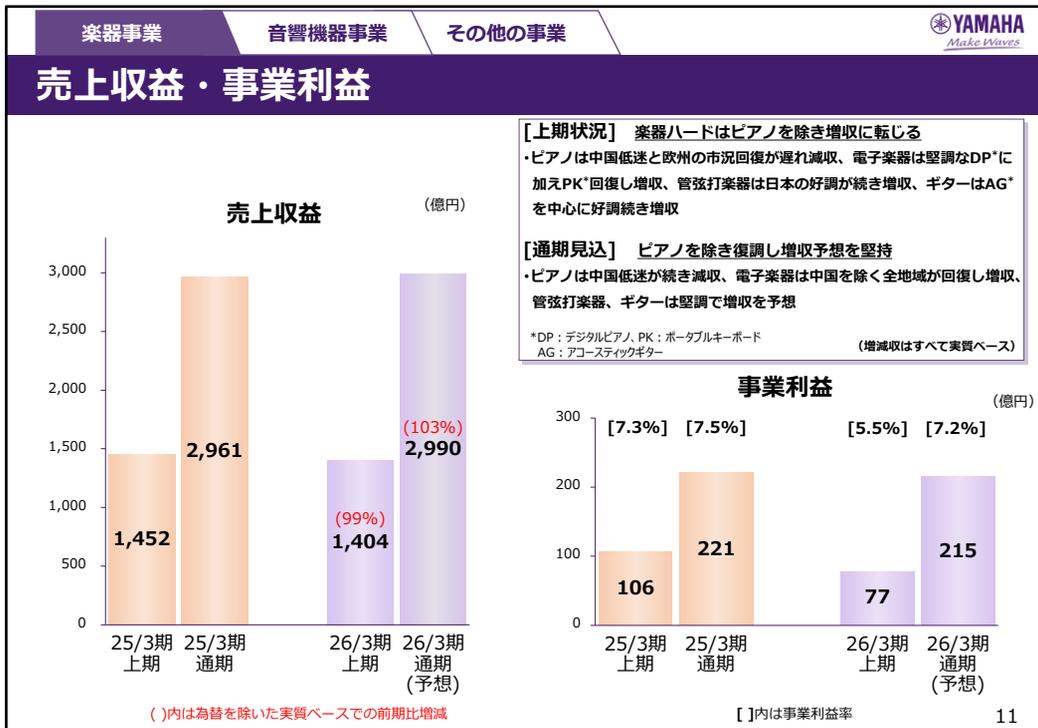
		26/3 (前回予想)	26/3 (今回予想)	前回予想比	為替影響
楽器事業	売上収益	2,930	2,990	60	53
	事業利益	205	215	10	22
	事業利益率	7.0%	7.2%	+0.2P	
音響機器事業	売上収益	1,390	1,390	0	24
	事業利益	110	110	0	8
	事業利益率	7.9%	7.9%	0P	
その他の事業	売上収益	200	200	0	0
	事業利益	5	5	0	0
	事業利益率	2.5%	2.5%	0P	

9

前回の予想との比較では為替の影響を除くと、楽器の売上収益が増加という形となっております。

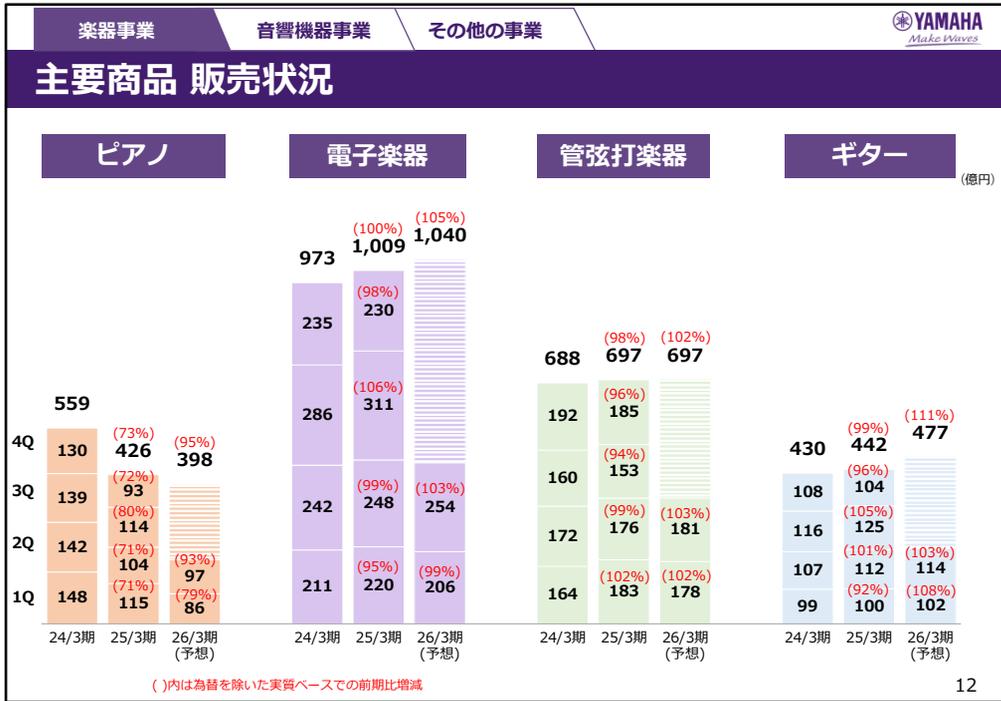


## 2. 事業別概要

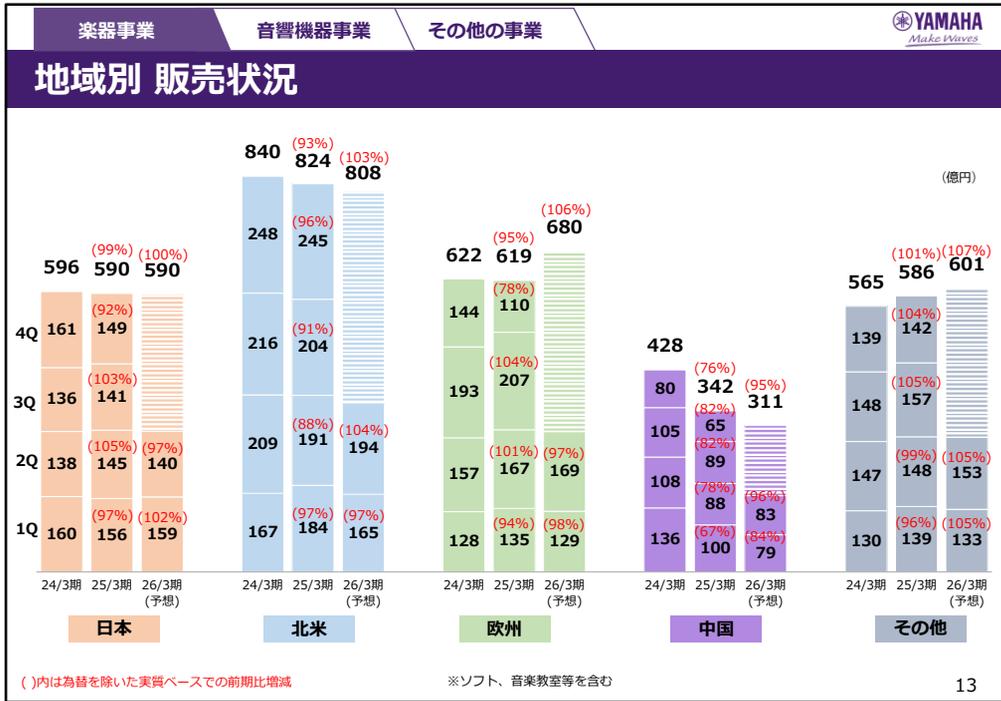


続いて、事業別の概要についてです。まず、楽器事業についてです。右上、上期の状況と通期の見込みについてまとめております。上期の状況ですが、楽器のハードはピアノを除き、増収に転じました。ピアノは中国の低迷と欧州の市況回復が遅れ減収となりますが、電子楽器は堅調なデジタルピアノに加え、ポータブルキーボードも回復し増収。管弦打楽器は日本の好調が続き増収。ギターはアコースティックギターを中心に好調が続き増収となりました。

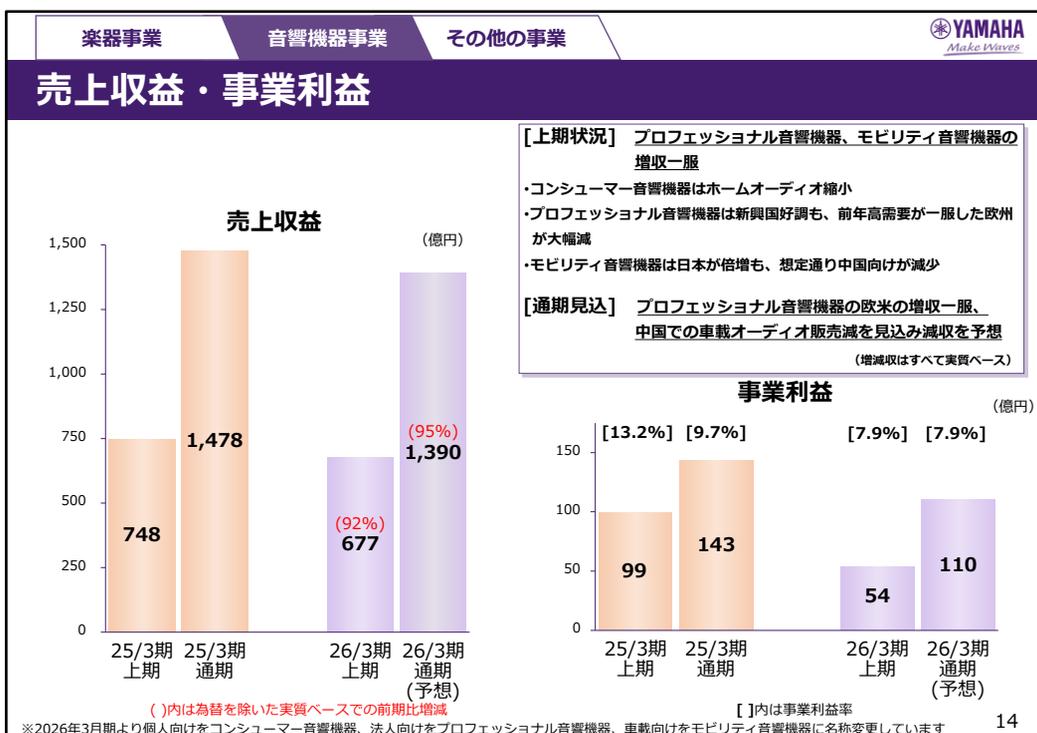
続いて通期の見込みになりますが、ピアノを除き復調し、増収の予想を堅持しております。ピアノは中国の低迷が続き減収。電子楽器は中国を除く全地域が回復し増収。管弦打楽器、ギターも堅調で、増収を予想をしております。



こちらは主要商品カテゴリー別の販売状況、そして見込みとなっております。ピアノが為替影響を除く対前年で95%、電子楽器が105%、管弦打楽器が102%、ギターが2桁増の111%と予想をしております。

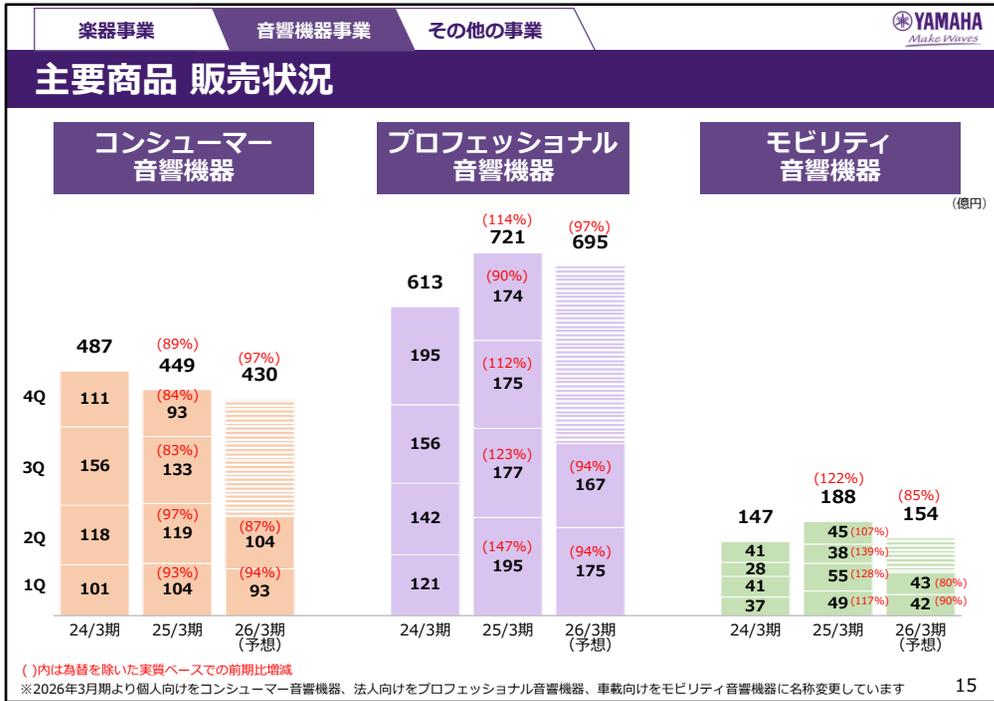


続いて地域別の販売状況と見込みについてです。欧州が対前期106%と伸長していることが目につきますが、これは前期第4四半期に基幹業務システムを入れ替えた際のトラブルで売上を落としたことによる影響となっています。北米、その他の地域が実質ベースで成長しており、一方中国については対前期95%を予想しております。

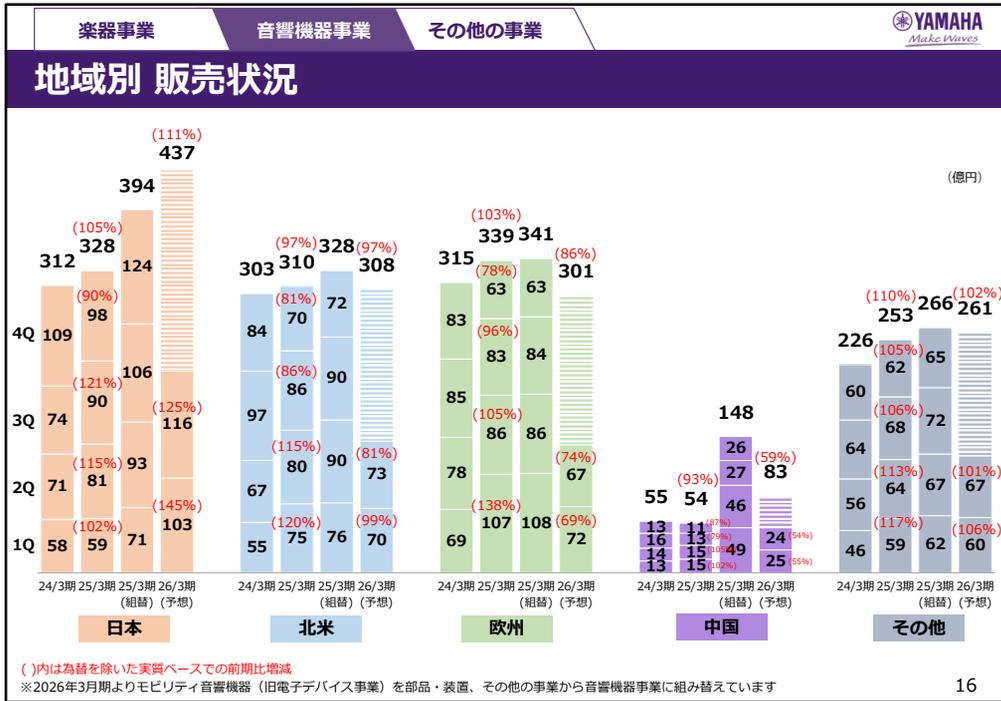


続いて、音響機器事業についてです。上期の状況としては、プロフェッショナル音響機器、モビリティ音響機器の増収が一服という形になりました。コンシューマー音響機器はホームオーディオが縮小。プロフェッショナル音響機器は新興国が好調であります。前年需要高が一服した欧州が大幅な減となりました。またモビリティ音響機器は、日本が倍増となりましたが想定通り中国向けが減少という結果になっております。

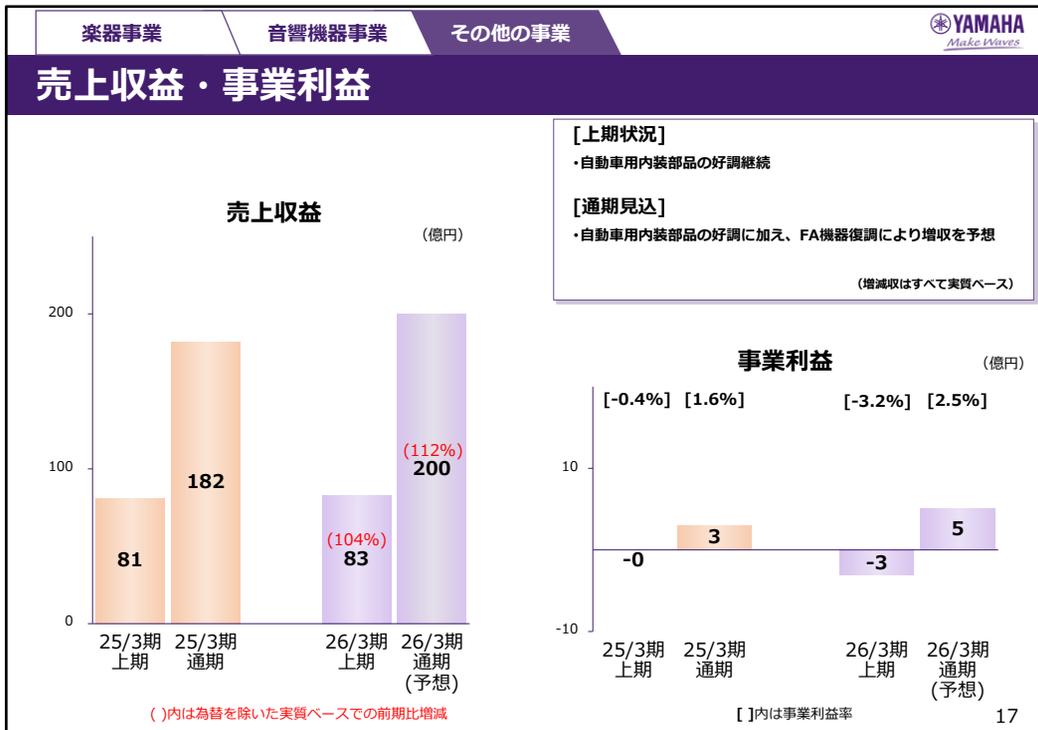
通期の見込みとしてはプロフェッショナル音響機器の欧米の増収が一服、中国での車載オーディオ販売減を見込み、減収を予想しております。



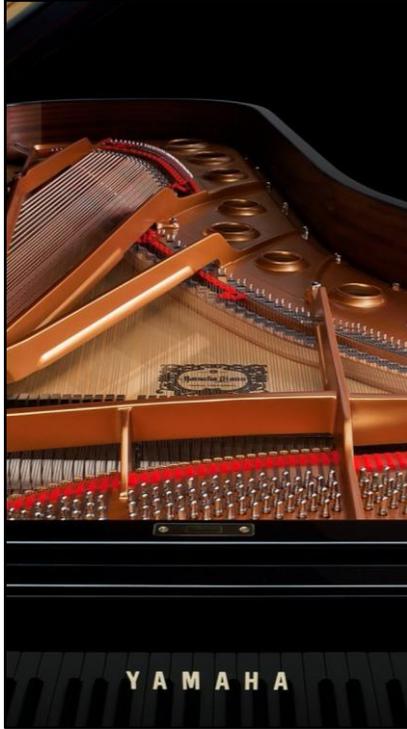
こちら三つのカテゴリーの販売状況見込みになります。コンシューマー音響機器とプロフェッショナル音響機器がそれぞれ対前年97%、モビリティ音響機器が85%となっております。



続いて地域別の販売状況と見込みになります。日本が111%と大きく伸ばしていますが、これはモビリティ音響で日本向けの成長が大きいこと、またネットワーク機器が好調であることが要因となっています。一方、欧州ではエンターテイメントPAの減、また中国ではモビリティ音響の中国メーカー向け減等があり、それぞれ大きな前年割れとなっています。



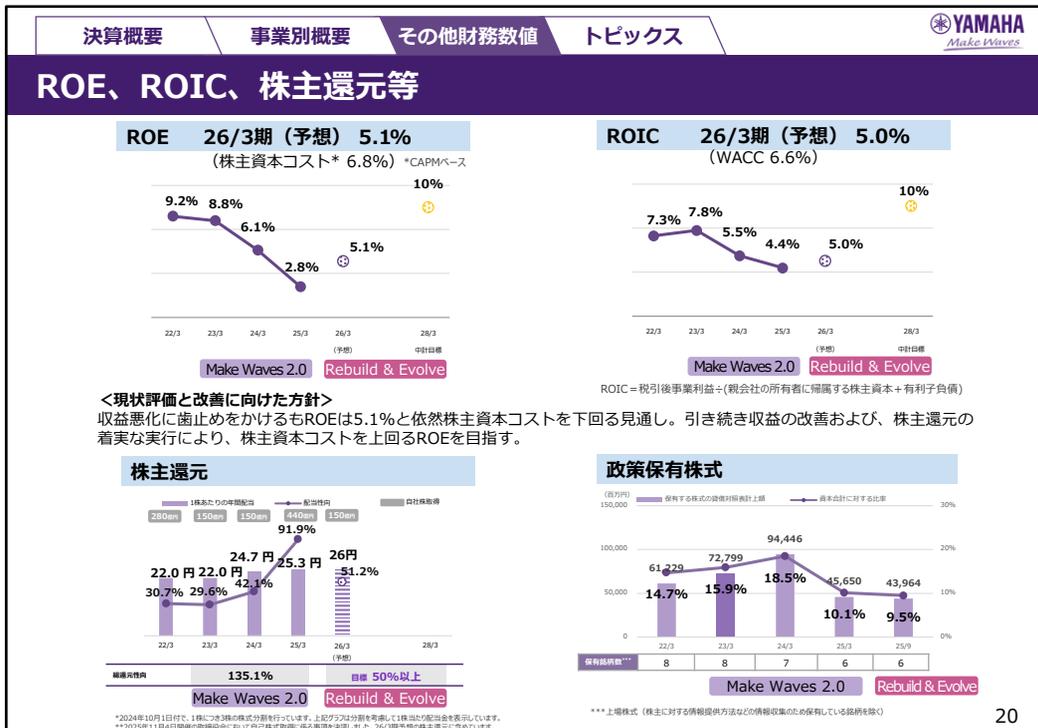
その他の事業については、自動車用内装部品の好調が続いており、また下期にはファクトリーオートメーション機器の増収を予想をしております。



### 3. その他財務数値

決算概要		事業別概要		その他財務数値		トピックス	
YAMAHA At the Heart of It All							
<b>貸借対照表</b>							
		25/3末	25/9末	増減		26/3末 (予想)	(億円)
現金及び現金同等物		998	1,075	77		940	
営業債権他		873	803	△70		883	
その他金融資産		52	43	△9		52	
棚卸資産		1,505	1,560	55		1,470	
他流動資産		91	82	△9		108	
非流動資産		2,393	2,421	28		2,356	
<b>資産計</b>		<b>5,913</b>	<b>5,984</b>	<b>72</b>		<b>5,810</b>	
流動負債		1,067	1,013	△53		958	
非流動負債		345	358	13		345	
<b>資本計</b>		<b>4,501</b>	<b>4,613</b>	<b>112</b>		<b>4,507</b>	
<b>負債及び資本計</b>		<b>5,913</b>	<b>5,984</b>	<b>72</b>		<b>5,810</b>	
<small>※当社は、2025年11月4日開催の取締役会において自己株式取得に係る事項を決議いたしました。          当期予想については、当該自己株式の取得の影響を考慮しておりません。</small>							

続いて、その他の財務数値でございます。まず貸借対照表になります。上期末における増減ですが、現金が77億の増となりました。その他営業債権と棚卸資産に比較的大きな変動がありますが、おおむね事業の季節性によるものと考えていただければと思います。流動負債に53億のマイナスがありますが、これは未払いの支払いが進んだものです。26年3月末の予想ですが、現金が940億、棚卸資産は1,470億円で、前期末から若干の減少を見込んでおります。



こちらのスライドでは、ROE、ROIC、そして株主還元等についてまとめております。まずROEです。当初6.3%の計画を立てましたが、関税影響もあり、5.1%の予想にとどまっています。株主資本コストの6.8%の間にはまだ開きがあり、引き続き収益の改善、そして株主還元の着実な実行を進めてまいります。ROICの見込みは5.0%になっております。また株主還元については、1株当たり26円の年間配当をここでお示ししております。

## 自己株式取得

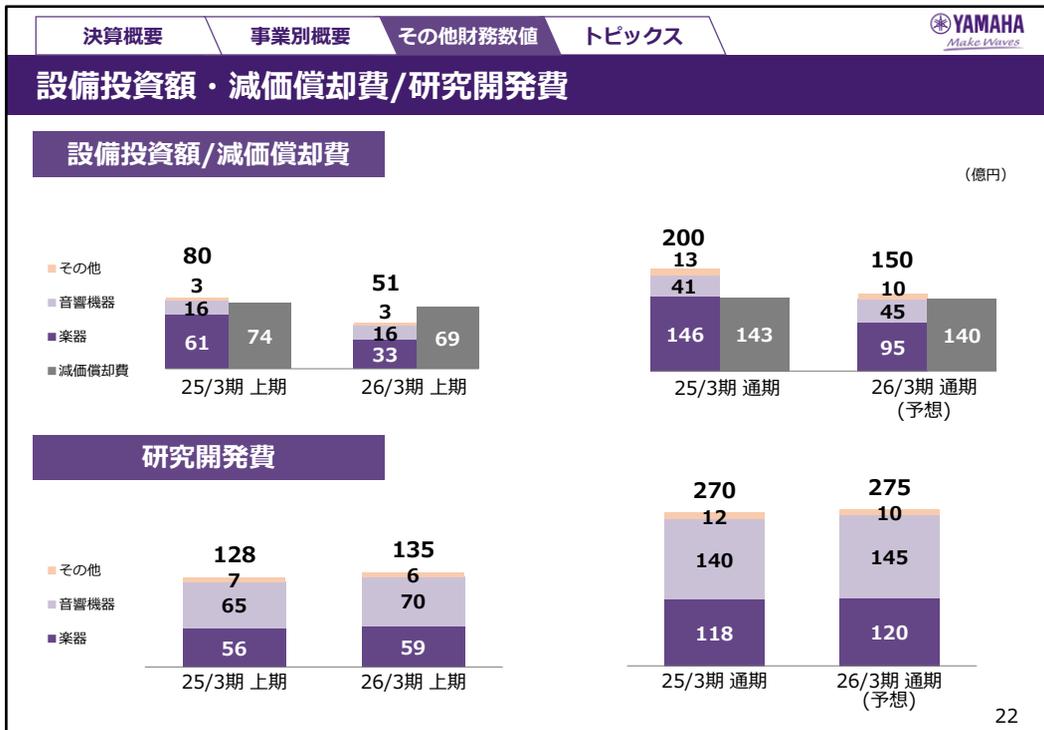
【決議日】	2025年11月4日
【理由】	株主還元と資本効率の向上を図るため
【取得期間】	2025年11月5日～2026年3月31日
【取得総数】	2,000万株（上限とする） 発行済株式総数(自己株式除く)に対する割合4.4%
【取得総額】	150億円（上限とする）
【取得方法】	東京証券取引所における市場買付

今回取得する自己株式は**すべて消却**する予定です

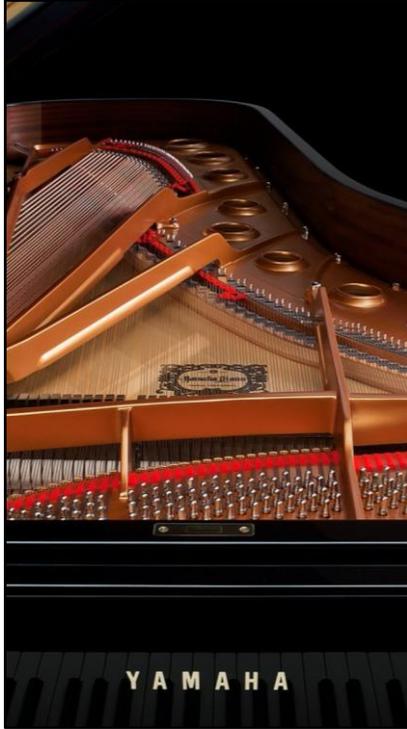
※2025年9月30日時点の発行済株式総数（自己株式除く） 453,385,763株

21

なお当社は、本日開催の取締役会において自己株式の取得に係る事項を決議いたしました。取得期間、取得総額等、こちらのスライドにお示ししている通りとなります。今回の自己株取得は株主還元と資本効率の向上を図るものであり、取得する自己株式は全て消却する予定としております。



設備投資、減価償却、そして研究開発費についてはこちらのスライドにお示ししている通りとなります。



## 4. トピックス

決算概要	事業別概要	その他財務数値	トピックス	
<b>中期経営計画 重点テーマ</b>				
<b>強固な事業基盤の再構築</b>		<b>未来を創る挑戦</b>		
<p><b>技術x感性で磨く本質的価値を追求した新商品</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>シンセサイザー</p> <p>MODX Mシリーズ</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>ギター用アンプ/エフェクトプロセッサ</p> <p>Helix Stadium XL Floor</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;"> <p>音楽制作機器</p> <p>URX-Cシリーズ UR-MK3シリーズ</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>ネットワーク機器</p> <p>無線LANルーター NWR100 L2スイッチ SWX2320-30MC L3スイッチ SWX3220-30MC</p> </div> </div> <p><b>グローバルアーティストリレーション強化</b></p> <p>ヤマハアーティストサービスヨーロッパを2026年1月にオープン</p> <p></p> <p><a href="https://www.yamaha.com/ja/news_release/2025/25090401/">https://www.yamaha.com/ja/news_release/2025/25090401/</a></p>		<p><b>重点市場への積極的投資による売上成長</b></p> <p><b>インド</b></p> <p>インド売上収益</p> <p>3年複合CAGR +13%</p> <p>バンガロールに音響機器エキスペリエンスセンターを開設し、音響機器マーケティングを強化 (2025年6月)</p> <p><a href="https://in.yamaha.com/en/business/audio/news/2025/0604-new-experience-center-in-bengaluru.html">https://in.yamaha.com/en/business/audio/news/2025/0604-new-experience-center-in-bengaluru.html</a></p> <p><b>フィリピン</b></p> <p>フィリピン売上収益</p> <p>3年複合CAGR +48%</p> <p>東南アジア最大級オンラインショッピングプラットフォームLazadaへの出店予定 (2025年10月)</p> <p><a href="https://www.lazada.com.ph/shop/yamaha-music-philippines/">https://www.lazada.com.ph/shop/yamaha-music-philippines/</a></p>		
		<p><b>新規事業創出への挑戦</b></p> <p>音を起点に新たな価値創出を目指すグローバルビジネスコンテストTRANSPOSE Innovation Challengeを開催</p> <p><a href="https://www.yamaha.com/ja/news_release/2025/25091001/">https://www.yamaha.com/ja/news_release/2025/25091001/</a> <a href="https://yamaha-music.agorize.com/ja/challenges/transpose-innovation-challenge-2025">https://yamaha-music.agorize.com/ja/challenges/transpose-innovation-challenge-2025</a></p> <p><b>協業を通じた新たなビジネスの創出</b></p> <p>Yamaha Music Innovationsが東南アジア最大規模のエンターテインメント企業POPSと協業し、インドネシア・ベトナムでリアル・デジタル融合プロモーションを展開 (2025年10月)</p> <p></p> <p><a href="https://www.yamaha.com/ja/news_release/2025/25092504/">https://www.yamaha.com/ja/news_release/2025/25092504/</a></p>		

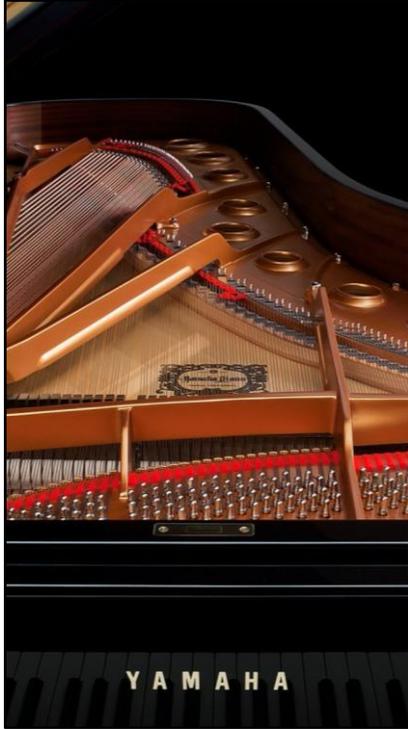
ここからはトピックスになります。中期経営計画の重点テーマとして取り組んでいることについて、いくつかご紹介をさせていただきます。まず、強固な事業基盤の再構築として新商品、本質的価値を高めるといようなことを進めております。こちらにご紹介しております通りに、シンセサイザー、それからギター用のアンプ、エフェクターそれから音楽制作機器、ネットワーク機器等々で本質的価値を磨いた新商品を発表しております。

続いて、未来をつくる挑戦のところについて少しご紹介をさせていただきます。まず、重点市場、特に新興国での積極的な投資による売上の成長を目指しております。インド、フィリピンに期待をしており、それぞれに投資を進めてきております。また新規の事業の創出への挑戦として、グローバルのビジネスコンテスト、TRANSPOSE Innovation Challengeの開催を発表しております。

決算概要	事業別概要	その他財務数値	トピックス	
<b>中期経営計画 重点テーマ</b>				
<b>サステナビリティを価値の源泉に</b>		<b>経営基盤の強化</b>		
<p><b>環境負荷低減の取り組み評価</b></p> <p>ヤマハ管楽器エントリーモデルの梱包箱が Pentawards 2025 で金賞を受賞</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 10px;">  <p>2025 Pentawards Gold</p> </div> <div>  <p>2025 Pentawards People's Choice Shortlist</p> </div> </div> <p>サステナビリティや環境負荷低減への取り組みを基盤としつつ、商品の価値と魅力を伝える洗練されたデザインへ刷新</p>  <p>従来の梱包箱 (左) と刷新後の梱包箱デザイン (右)</p> <p><a href="https://www.yamaha.com/ja/news_release/2025/25100701/">https://www.yamaha.com/ja/news_release/2025/25100701/</a>  <a href="https://www.yamaha.com/ja/stories/for-our-future/packaging-redesign/">https://www.yamaha.com/ja/stories/for-our-future/packaging-redesign/</a></p> <p><b>超音波式ヒートシール検査機が JAPAN PACK AWARDS 2025 で最優秀賞を受賞</b></p>  <p>食品/医療包装や電池のフミネット不良を防ぐ超音波検査機で、省資源および廃棄によるロスコスト削減</p> <p><a href="https://www.yamaha.com/ja/news_release/2025/25102101/">https://www.yamaha.com/ja/news_release/2025/25102101/</a></p>		<p><b>新興国の音楽教育普及の取り組み拡大</b></p>  <p>リコーダーを用いた音楽教育の試験導入の覚書締結</p> <div style="display: flex;"> <div style="margin-right: 10px;">  <p>エジプト 教育・技術教育省 対象: 公立小学校100校</p> </div> <div>  <p>インド ナガランド州教育局 対象: 公立小学校40校</p> </div> </div> <p><a href="https://www.yamaha.com/ja/news_release/2025/25082501/">https://www.yamaha.com/ja/news_release/2025/25082501/</a></p> <p><b>幼児の音楽体験機会を創出し、音楽文化の裾野を拡大</b></p>  <p>ベトナムの幼稚園にヤマハの音楽教育プログラムを提供</p> <p>学研グループ会社が出資するベトナムエドテック企業と業務提携</p> <p><a href="https://www.yamaha.com/ja/news_release/2025/25082902/">https://www.yamaha.com/ja/news_release/2025/25082902/</a></p>		
		<p><b>世界中のヤマハの絆を深め 一体感を醸成</b></p> <p>ヤマハブランドに思いをはせる日 Yamaha Day グローバル社内イベントをリアル・オンライン開催</p>  <p>社長表彰Yamaha Awards 2025年度受賞者を発表</p>		
		<p><b>ステークホルダーエンゲージメント</b></p> <p><b>統合報告書 2025 発行</b></p>  <p><a href="https://www.yamaha.com/ja/ir/library/publications/">https://www.yamaha.com/ja/ir/library/publications/</a> 25</p>		

サステナビリティを価値の源泉にでございますけれども、真ん中のところ、新興国での音楽教育の普及の取り組みの拡大を進めております。エジプト・インド、そしてベトナム等の事例をこちらでは紹介しております。その他、経営基盤の強化も含め中計の重点テーマについては着実に進捗をしているところと理解をしております。

以降、付属資料となります。こちらまでが私からの説明となります。ありがとうございました。



## 付属資料

## 2Q 業績概要

(億円)

	25/3	26/3	前期比	
売上収益	1,160	<b>1,125</b>	△35	△3.0% <sup>*2</sup>
事業利益 (事業利益率)	112 (9.6%)	<b>81</b> (7.2%)	△31	△27.6%
当期利益 <sup>*1</sup>	△42	<b>74</b>	115	+277.4%
為替レート (円)				<sup>*2</sup> △2.9 % (為替影響除く)
US\$	150	<b>147</b>		
EUR	164	<b>171</b>		

\*1 親会社の所有者に帰属する当期利益

## 2Q 事業別実績

(億円)

		25/3	26/3	前期比	為替影響
楽器事業	売上収益	738	739	0	△1
	事業利益	64	56	△8	2
	事業利益率	8.6%	7.6%	△1.1P	
音響機器事業	売上収益	383	347	△36	1
	事業利益	52	31	△22	1
	事業利益率	13.6%	8.8%	△4.8P	
その他の事業	売上収益	39	39	1	△1
	事業利益	△4	△5	△2	△1
	事業利益率	△10.5%	△13.9%	△3.4P	

28

## 上期 その他収支等

(億円)

		25/3	26/3
<b>事業利益</b>		<b>204</b>	<b>128</b>
その他収益・ 費用収支	固定資産処分損益	△0	0
	その他	△84	△4
	計	△85	△3
<b>営業利益</b>		<b>120</b>	<b>125</b>
金融収支計	受取配当金	15	10
	その他	△44	7
	計	△29	17
<b>税前利益</b>		<b>91</b>	<b>142</b>
法人税等		△38	△44
非支配株主利益		0	0
<b>当期利益*</b>		<b>53</b>	<b>98</b>

\* 親会社の所有者に帰属する当期利益

## 通期 その他収支等

(億円)

		25/3	26/3 (予想)
<b>事業利益</b>		<b>367</b>	<b>330</b>
その他収益・ 費用収支	固定資産処分損益	4	△1
	その他	△164	△20
	計	△160	△21
<b>営業利益</b>		<b>207</b>	<b>310</b>
金融収支計	受取配当金	26	19
	その他	△8	△3
	計	18	15
<b>税前利益</b>		<b>225</b>	<b>325</b>
法人税等		△90	△93
非支配株主利益		△1	△2
<b>当期利益*</b>		<b>134</b>	<b>230</b>

\* 親会社の所有者に帰属する当期利益

この資料の中で、将来の見通しに関する数値につきましては、  
ヤマハ及びヤマハグループ各社の現時点での入手可能な情報に基づいており、  
この中にはリスクや不確定な要因も含まれております。  
従いまして、実際の業績は、事業を取り巻く経済環境、需要動向、  
米ドル、ユーロを中心とする為替動向等により、  
これらの業績見通しと大きく異なる可能性があります。